

第57回神奈川建築コンクール 一般建築物部門 審査総評 審査委員 大原一興

---

今年度の応募件数は、例年並みよりやや少なく 36 件であった。

まず書類審査による第 1 次選考として審査評点の合計点による結果を踏まえ、現地審査の対象を絞った結果、第 2 次選考対象として 16 件が選ばれた。

県内各地への現地審査は 4 日間にわたり行われ、その後開かれた第 2 次審査会で、現地審査での印象や評価をふまえ投票と意見交換により、最優秀賞 1 件、優秀賞 8 件、そしてアピール賞 2 件を授賞作とした。以下は、選ばれた作品全体の印象と、各賞の該当作品の紹介をしたい。

まず、全体の印象だが、ここ数年の傾向としてランドスケープや周辺環境との応答など、単体の建築よりも周囲景観との調和・一体感、といった点が配慮されていることが共通して見られ、授賞作品にもそれらは基本となっている。しかし、環境に応じて自動的に建築が形成されるのではなく、今回は多様な種類の施設がそれぞれの建築の機能をきちんと主張していることが高い評価に結びついたのでと思う。

最優秀賞となった「湘南学園小学校」は、住宅地内にひっそりと溶け込んだ小学校で、近隣住宅との関係や学校の教育方針を丁寧に読み込んで解答を引き出した一連の行為に完成度の高い建築を感じた。建築の企画、設計力の高さは細部にわたる工夫の積み重ねを実現し、それに応えた細かい仕上げや施工の上質さと、環境学習の場としての活用を含め、学校の教育姿勢にうまく合致した建物の使い方が展開されており、最終的には設計、施工、利用者による協働が効果的に展開されている。

つづいて優秀賞の「ニフコ技術開発センター」は、リサーチパークの街並みからはやや断絶しつつも、研究所に必要とされる創造的環境を引き出すために背面の緑環境を最大限活かした、巧みな空間構成と、それを支える設備環境の一体的な構成が高く評価された。

「川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム」は、多くの人に親しまれるキャラクターの強い中心力を活かし、建築空間と展示空間さらに運営者の一体感が理想的な施設空間をつくり出している。屋外空間やアプローチなど建築物との融合も良好にはかれている。

「テラスモール湘南」は、辻堂駅前の再開発で規模は巨大だが、屋内商業施設とビレッジと呼ばれる外部のモール、テラス上の空間など、多様な居場所を提供してくれる空間が重層的に集約し、駅前の街の入り口としての広場のような公共空間を形成している。

「厚木市斎場」は、非日常的な出来事に対応したダイナミックなモニュメントとしての形態、それに加えて計画的な配慮として利用者の行動に即した動線や空間構成を細部まで丁寧に作り上げている。斎場機能のひとつの理想的なモデルタイプを実現している。

「横浜市瀬谷区総合庁舎」は、従来の環境を活かした公園に隣接する公共建築として、バランスのとれた設計が堅実におこなわれている。市民の日常に必要な区役所機能を中断することなく建て替えを実現した敷地全体の建設プロセスの計画は優秀なデザインと言える。

「京浜急行電鉄黄金町高架下新スタジオ+かいだん広場」は、数年前にアピール賞を獲得した一連のプロジェクトによる、連続的な小規模空間の再編の試みである。企画運営、設計、市民参加の融合した活動の中で、ひとつひとつの建築は個性的にかつのびのびと主張をしていることが好感度をあげている。

「戸塚駅西口第1地区第二市街地開発事業」は、再開発の最終段階となる複合施設で、その企画、運営を含めた一連の建設行為は力作であると評価され、わかりやすい空間構成や様々な工夫、個々の内部から生じる要求をきめこまかく検討した結果の産物となっている。

「中央大学附属横浜中学校・高等学校」は、周辺のニュータウンの住宅地との関係を熟考しグラウンドや校舎が配置されている。均質的な教室群やのびのびとした中庭が生み出されており、汎用性の高い学校空間が実現している。

今回のアピール賞としていずれも「環境」への配慮が評価されたが、規模や用途の違いもあり、そのアプローチは異なったものとなっている。まず「ヒロセ電機株式会社横浜センター」はサステナビリティを配慮し200年コンクリートを使用し、建物の長寿命化に関連する様々な要素技術をバランスよく見事に統合している。およそ100年後には評価が定まっていることであろう。

「風と光のトイレ」では、公園という文脈や通風採光といった直近環境への配慮をきめ細かく集約した。設備に依存しない維持管理の持続性に効果的で密度の高い建築となっている。